

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター 展示会レポート 2003 年 12 月

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2003 Kay Office All rights reserved.

展示会レポート

NEC iEXPO 2003

2003 年 12 月 3 日-5 日
 東京ビックサイト
<http://www.uf-iexpo.com/>

東京ビックサイトで開催された NEC の iEXPO2003 では、NEC のグループ会社各社等が、テレビ会議端末、電話会議端末、PC 用ウェブ会議と展示していた。ウェブ会議用は、パートナー企業が開発したものも含め 5 製品、またウェブ会議と 3G 携帯テレビ電話との組み合わせたソリューションなどがみられた。

テレビ会議システム「MeetingPointIP」



ハードウェア系だと、NEC エンジニアリングが、ISDN と IP に両対応したテレビ会議システム「MeetingPointIP」の最新の商品と、電話会議システム「VoicePointIP」などを展示していた。昨年 12 月 24 日から出荷販売していたテレビ会議システム「MediaPointIP」

について機能強化を行い新たな製品をリリースした。新たな製品は、以前の機種と比較し、ISDN でサポートする通信速度 (128kbps) や画像符号化 (H.261) では変更はないが、従来の機種は、32 万画素デジタル 2 倍ズーム、IP 通信速度が 384kbps までであったが、今回新たに光学 2 倍ズームが可能な 41 万画素 CCD カメラを内蔵、IP テレビ会議用の通信速度を以前の 64kps~512kbps までサポートした。重さは、1.3kg で B5 ノートパソコン程度の重さで他社同類の製品と比べても軽量。本体カメラ部を合わせての重さでみるとこの機種がもっとも軽いのではないかと思う。

StartOffice 21

またウェブ会議系については、「StartOffice 21」と呼ばれる、企業内の業務、コミュニケーション、情報管理、文書管理などをウェブインターフェイスでポータル化し、さまざまな情報、コミュニケーションツールへのアクセスを容易にすることにより業務の効率化を図るソリューションが展示されていた。またユニファイドコミュニケーションツールとして、ソフトフォン、ボイスメールと電子メールを組み合わせたものと合わせ、ウェブ会議「コミュニケーションドア」も紹介されていた。

3GVirdnet

3G テレビ電話携帯端末 3G 携帯電話と IP ネットワーク橋渡しする機能 (ゲートウエイ) を提供した「3GVirdnet」と組み合わせると、3G テレビ電話携帯端末がウェブ会議に参加できる。

ただ、ウェブ会議の製品としてのポイントのひとつは資料共有というところにある。3G 端末では資料の共有は閲覧できないが、PC などに参加している参加者の映像と音声は見るできるので出張中などで PC インターネット環境がない場合、3G 携帯端末からウェブ会議に参加できるという仕組み。

「3GVirdnet」が適用できるアプリケーション環境はウェブ会議だけでなく、PC サーバーに蓄積されている映像データなどを同製品のゲートウエイを介して 3G 端末へも配信ができる。

ウェブ会議、NEC は 5 製品展示

NEC 本体が展示していたウェブ会議としては、この「コミュニケーションドア」と、「BindMagic N+」。その他展示されていた「BizMate Pro」、「FACE Conference」、「Web カンファレンスサーバー WX 2.1」は、他社が開発したものを NEC グループ企業などが販売しているという状況のようだ。基本的な、ビデオ会議機能、資料共有 (ホワイトボード機能、アプリケーション機能) 機能は基本的な機能としてどのウェブ会議

(NEC が取り扱っているものだけでなく一般的に見て)製品も搭載している。

コミュニケーションドア

「コミュニケーションドア」と、「BindMagic N+」については、詳しく話を聞くことができなかったが、パンフレットベースでちょっとまとめると、「コミュニケーションドア」は、ビデオ会議に使われている符号化技術については、MPEG4(NECが独自開発した低遅延のコーデック技術を使っている)に対応、また音声については、3G 携帯電話で使われているAMR(Adaptive Multi-rate)技術を採用している。

またセキュリティについては、128BitSSL、プロキシやNATに対応しているのでウェブサーバーにアクセスすることができれば基本的にネットワーク環境を意識する必要はないようだ。(最近のウェブ会議ソリューションは、プロキシやNAT問題に対応している場合が多い。企業ユーザーのネットワーク環境を想定しているため)

BindMagic N+

また、「BindMagic N+」は、もともとバインドビット(奈良県大和市)が開発したものではないかと思われる。(同社の開発する製品名とウェブのインターフェイスが見た目同じなため)。基本的なウェブ会議の機能(資料共有など)は搭載されており、プロキシやNATにも対応している。また独自のプロトコルによるセキュリティをサポートしている。NECでの販売価格はわからないが、バインドビットのホームページによると、基本同時接続ライセンス数8人が400万円(1人あたり、50万円だが、追加8ライセンスをとると1人あたり10万円となる。1サーバーあたり32人分まで拡張可能。)から。1人当たりの利用帯域は32kbps程度。

韓国系のソフトウェアディベロッパー

最近、韓国系のソフトウェア開発事業者が、ウェブ会議系に力を入れていると聞く。さまざまな製品が日本にも入りつつあるようだ。韓国はブロードバンド先進国であるが、町中にある「PCバン」と呼ばれるインターネットカフェなどでは、ネットゲームだけでなくIPウェブビデオ電話などがはやっていているということを聞いたことがある。そういった背景からか多くの韓国系の企業が開発をしているのかもしれない。韓国で

は大手企業や国などでも導入されていると聞く。

「BizMate Pro」、「FACE Conference」は、会社は違うが別々の韓国系企業がソフトウェアを開発している。いずれも独自仕様で開発されたウェブ会議だが、少ない限られた帯域でウェブ会議ができるのがポイントのひとつ。

Webカンファレンスサーバー WX 2.1

「Webカンファレンスサーバー WX 2.1」は、アメリカのウェブ会議ソリューションを開発するFVC(ファーストバーチャルコミュニケーションズ)の「ClickToMeet」を日本語環境に最適化したもの。

「ClickToMeet」は、国際標準 H.323 に準拠したウェブ会議で、現在市場に出回っているポリコムやタンバーク、ソニーなどのテレビ会議製品がこの「ClickToMeet」のウェブ会議に参加できる。この「ClickToMeet」は、PC 端末、電話、H.323 テレビ会議などさまざまな端末がウェブ会議に参加できる。携帯電話でも、PC 端末でも、画面にある、番号を入力するところに呼び出したい番号などを入力すると、携帯電話でも PC 端末でも呼び出すことができる。ここは他社製品にはあまり見られない特長かもしれない。

この国際標準に準拠するポリシーは、FVC には旧ピクチャーテルの創業者兼 CEO であったノーマンゴート氏がボードメンバーだが、ゴート氏の影響が結構あるのではないかと推察する。国際標準に対応したウェブ会議は、たとえば社内にある既存のテレビ会議システムなども有効活用するというのを考えると有効なソリューションかもしれない。

BizMate Pro 日本語版 1.1

アド・ホック(北海道札幌市)は、韓国 MC-Global 社が開発したウェブビデオ会議システムである「BizMate Pro」の日本語の開発を手がけ、2002年8月から国内代理店を通して販売している。同社のホームページ情報によると、国内では、NTTグループ系企業、札幌医科大、芝浦工業大学など、また韓国では韓国民主党や国防軍などセキュリティが要求される用途で活用されている。

今年2月にバージョンが1.1にアップグレード。「BizMate Pro 日本語版 1.1」は、最大参加人数を12人から15人に拡大。音声品質をさらに向上させ、低帯域でもスムーズな会話を可能にした(音声や動画などの音声符号化技術には

世界標準規格の MPEG-4 を採用している)。また、NAT(ネットワークアドレス変換)への対応を実現した。



「BizMate Pro」タブレット PC でのデータ会議は便利かも

さらに、「BizMate Pro 日本語版 1.1 Observer Edition(オブザーバーエディション)」、「BizMate Pro 日本語版 1.1 Seminar Edition(セミナーエディション)」というタイプの違う2種類をラインナップに加えた。

「BizMate Pro 日本語版 1.1 Observer Edition」は、少数人数の会議を傍聴する場合やパネルディスカッション用途向けに開発されており、最大 40 人の接続が可能。傍聴者(オブザーバー)と発言者の入れ替えも、自由自在。発言権を持たない傍聴者も画面右端に表示される。

「BizMate Pro 日本語版 1.1 Seminar Edition」は、講演会や朝礼など大人数の参加を必要とする場合に最適で、最大 100 名の接続が可能。

FACE Conference

NEC 通信システム(東京都港区)は、韓国ハンビットソフトが開発し日本のクレオ(東京都港区)がローカライズさせたウェブ会議「FACE Conference」を展示していた。「FACE Conference」は、エントリーモデルの「FACE Meeting」、ファイル共有、ホワイトボード機能搭載、英語中国語に対応した「FACE Conference LITE」、ファイル共有、ホワイトボード機能に加え会議を予約し、参加者にメール通知が可能な「FACE Conference Standard」、Standard 版にアプリケーション共有機能を加えた「FACE Conference Standard+アプリケーション共有」の4タイプあり、価格は、エントリーモ



手前が「FACE Conference」で奥が「Tele Circle MT-20」

デルイントラネット版で1ライセンス 15,600 円から。

監視系 MPEG4、MPEG2 画像監視支援システム

監視系のシステムだと、NEC 通信システムでは、1監視端末で最大 240 台の同時監視ができる MPEG4、MPEG2 に対応した IP ネットワークを使った画像監視支援システムも販売している。機能としては、監視場所を巡回表示する機能、画像キャプチャー機能、カメラ異常監視、長時間録画、予約録画、他社とのカメラ接続サポートなどが製品特長としてある。

ヘッドセット式電話会議端末「Tele Circle MT-20」

IXPO2003 では、同社が開発したヘッドセット式電話会議端末「Tele Circle MT-20」も展示していた。同製品は、ヘッドセットがポイントで、従業員が多数働く大部屋式のオフィスにある簡単な会議卓で行っても相手の音が外部にもれず、場所を選ばずに会議が行えるのがメリット。1地点で 8 人まで同時に電話会議ができる。展示ではウェブ会議「FACE Conference」と組み合わせた使用例も紹介していた。
(NEC iEXPO 2003 リポート終わり)

CNA Report Japan(シーエヌイー・リポート)
編集長 橋本 啓介 k@cna.jp

(CNA Report 展示会リポート 2003 年 12 月)